

# 研究の概要【令和元年度（研究2年目）】

1年目の反省を受け、テーマを狭めずに授業づくりを中心に研究を進めること、授業の中の議論の部分に焦点を当てて研究をすることとし、研究テーマを以下のように設定した。

令和元年度校内研修テーマ  
**自己の生き方を見つめ、よりよく生きようとする  
 心の力を育む道徳教育**

## （1）研究組織



研究推進委員会では、「考え議論する道徳」とは何かを定義した。更に、家庭に向けて学校の取組や道徳に関する情報を届けるために家庭向け道徳通信『ほっとハート』の発行を決めた。

### 【考え議論する道徳の解釈】

考え・議論する道徳

主体的に  
自分との関わりで

多様な感じ方、  
考え方と出会い交流する

自分との関わりを通して価値について主体的に考え、  
多様な感じ方・考え方と出会い交流する道徳

研究2年目は授業づくりを中心に研修を進めるために、授業支援部の中に議論の方法や手立てを研究する『議論研究班』と、議論の時間を確保するための授業構成を考える『授業スタイリング』の2班を設置し、授業に生きる研究を目指した。

議論研究班では「目指す議論する姿」とは何かを定義して研究を進めた。

### 【発達段階に応じて目指す議論する姿】

高学年	自分の中の本音と建前を比べ、 自分にとって価値のあるものは何かを考える。
中学年	相手の考え方と自分の考え方を比べて考える。
低学年	自分の考えをもち、相手に伝える。

授業スタイリング班では、議論する時間の確保のための工夫や授業構成などについて調べたことについて『柏原小道徳の手引き』としてまとめることとした。

環境整備部では1年目よりも充実した校内環境づくりに力を入れた。



心の虹

ボランティアさんの紹介



## (2) 授業実践

### 第1回研究授業

2年1組『森のともだち』

授業者：有泉 美菜 教諭



### 第2回研究授業

4年2組『大きな絵はがき』

授業者：本田 奏 教諭



### 第3回研究授業

6年2組 『銀のしょく台』

授業者：和氣 拓巳 教諭



指導者：富士見市立みずほ台小学校教頭

鈴木 孝雄 先生

## (3) 成果と課題

○各学年で取り組んだ考えの可視化（心のものさし、表情カードなど）は使いやすかった。

○授業づくりに道徳の手引きを活用することができた。

○中心発問の話し合いに15分時間をかけることを意識して授業づくりをしたため、十分な時間の確保をすることができた。

○切り返しはどの学年においても有効だった。日ごろから児童の考えに対してどうしてそう考えたのかを言わせるようにしていきたい。

○板書の仕方についても、各学級で工夫が見られた。更に板書写真を共有フォルダに蓄積することで、よい板書を共有し別の授業に生かすことができた。

▼心情円盤は操作がしにくく、全体で可視化できないため、お互いに見合えるような工夫が必要だと感じられた。

▼1対1の問い返しではなく、児童から児童へ考えを広げていく問い返しの方法をさらに研究していきたい。

▼もっと本音を引き出していけるような意図的な問い返しを計画しておく必要がある。

▼今年度の取組で授業の型が見えてきた。次年度は授業研究部を一つにして、もう一つ別の部を作成し、更に研究を深めていく。

各学年の取組のまとめ